

佛教大学広報誌

B-ism

No.8

佛教大学

B-ism

No.8

発行日
2014年(平成26年)6月27日

発行者
山極 伸之

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 紫野キャンパス



2 巻頭特集 | スペシャル鼎談「法然仏教学研究センター」開設記念
八百年の時を超えたメッセージ

6 大学新報 hot-TOPICS. 卒業生インタビュー
前田彩里さん(ダイツ陸上競技部)
クラブ・サークル見聞録(番外編) 卒業生インタビュー
張本優大さん(福岡ソフトバンクホークス)

8 「密着! 高橋ゼミ」教員 研究紹介
高橋伸一 教授
社会学部 公共政策学科

10 学生編集室の窓
「ユアアイスクエア」

12 B・I・I 研究報告
社会学部 社会福祉学科
田中智子 准教授

15 「Favorite」先生のお気に入り
文学部 英米学科 瀬戸賢 教授
「ロゼッタストーン」

16 輝き Close Up 活躍する学生たち

17 Listen-UP OB・OG 訪問

18 追悼 元学長 名誉教授 水谷幸正先生

19 hot-TOPICS. 大学の動向
20 第7回 小学生俳句大賞 ほか

22 B・Information みんなの掲示板

八百年の時を超えたメッセージ

現代を生きる私たちへ、法然上人からの提言

ITO Yuskin
伊藤唯眞
ISHIMARU Akiho
石丸晶子
YAMAGUCHI Nobuyuki
山極伸之
|| 司会 進行

今年4月、本学は浄土宗開祖の法然上人に関する研究を旨とした「法然仏教学研究センター」(以下、研究センター)を開設した。今号では、その開設を記念して、浄土門主・総本山知恩院第88世門跡である伊藤唯眞元学長と、上人に関する著書・論文を多数執筆されている石丸晶子氏を招いての鼎談を開催。舞台は知恩院、研究センター長を務める山極伸之学長を進行役に法然上人の実像に迫った。(文中敬称略)

その眼差しは 民衆に向けられた

山極 本学では研究センター開設を契機として、一般の方々に法然上人や浄土宗について周知していきたいと考えており、本日は伊藤下と石丸先生にいろいろ

とお話をお聞かせ願えればと思っております。まず、法然上人に対してお持ちの印象をお聞かせくださいませんか？

伊藤 法然上人の人生は、浄土宗開宗までの前半と、開宗後の後半に大別できます。前半期、すなわち40代の初めころまではとにかく勉強家、読書家であり、開宗に向けて学問の蓄積を

行っていた時期。この時期があったからこそ後半期における念仏による教えへの自信につながり、念仏を通して浄土を見る「三昧発得」の考えに至られたのでしょう。その教え、眼差しは、天災や人災に苦しむ当時の一般民衆に向けられていました。民衆が生きる望みと喜びを、どうすれば持ってくれるかを絶えず考えてい

たお方でした。

石丸 猯下がお話しになられましたように法然様は非常な秀才だったと聞いていますが、一般の人間生活、人間心理にも通じたお方で、民衆への愛に満ちておられました。法然様がお書きになったお手紙を現代語訳させていただいた際、思わず涙が流れました。「清く正しい」という言葉を使えば法然様はまさしくそうでしたが、小川のせせらぎに例えられるそれではなく、大河の流れのような深みと慈しみを持ったお方だと思えます。

本質は崩さず 柔軟に教えを説く

山極 では、法然上人の魅力とはなんでしょうか？
伊藤 民衆愛に加え、人を見る目の確かさが挙げられます。読み書きのできない者にはわかりやすい話を聞かせるが、身分の高い者に

は時に強い口調で教えを説く。一律的な話ではなく、相手に応じて内容や口調を柔軟に変える才がありました。しかし、念仏が本義であるという思いは崩さない。浄土宗が弾圧を受け、上人自身も流罪になるうかついう時、弟子が念仏を控えてはどうかと尋ねても決然とそれを断っている。念仏という本質はしっかりと押さえてながら、あとは各人の状況、立場に応じて仏が喜ぶ行いをして過ごせば良いと教えてくださっているんですね。
石丸 市井の老婆が訪ねてくると「西方浄土のある西に向かっておしっこをしてはいけません」といったお話をされる一方で、貴族への手紙では力強く堂々と教えを諭しておられる。また、津戸三郎という武士が法然様から袈裟と数珠をいただいたいと申し出たところ、新品ではなく普段使われているものを贈られたそうです。



石丸 晶子(いしまる あきこ)
1935年、東京生まれ。東京大学文学部美術史学科・阿国文学科卒業。1975年同大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。2006年東京経済大学を定年退職、名誉教授。専門は、日本近・現代文学。著書に「有馬武部作家作品研究」「式子内親王一面影ひとは法然」現代語訳に「法然の手紙一愛といたわりの言葉」など日本古典分野にも著書多数。法然上人ファン。

彼がそれを望んでいるだろうと推察されたわけですね。本当にお心遣いが細やかで、熊谷直実に宛てたお手紙では、直実の年老いた母親へのお気遣いを細やかに説いておられます。

伊藤 浄土宗における本願の行は念仏であり、本来であれば孝養、つまり親孝行よりも念仏を勧めるところを、一人の人間として直実と母を思い、安らかな境地を迎えられるように孝養を尽くしてくださいと言っている。世俗の倫理もとても大切にしているわけです。

石丸 とても面白い比喻表現を用いてお話しされる点も魅力ですね。人間心理万般に通じ、また真理を論理ではなく、比喻をもって語るころは、聖書におけるキリストの説き方と共通していると感じています。

「目に見えない」
「心の世界」の復興

山極 仏教は相手の素質・能力に従って法を説く「対機説法」を旨としていますから、比喻を用いるのは釈迦の頃から実践されている

伊藤 唯真(いとう ゆいしん)
1931年、滋賀県生まれ。佛教大学卒業、同志社大学大学院文学研究科博士課程(文化史学専攻)修了。1961年佛教大学講師。1974年同教授。1985年同文部部長、1989年佛教大学長、1997年京都文教短期大学長、佛教大学名誉教授、1999年家政学園(現京都文教学園)学園長。2007年大本山浄土宗法主就任。2010年浄土門主・総本山知恩院門跡上任。

然様は一切衆生平等のもと、お念仏を軸として多くの方との交流の中で絆を築き、絆の大切さを体現してこられた方です。合理主義、科学主義の時代が行き詰まり、人々が新しい心の支えを求め始めた現代において、法然様の御教えを広めていくことには大変な意義があると思います。

私の父は代々続く農家の出身でしたが、亡くなった直後に枕元から「南無阿弥陀仏」と書かれた辞世の歌が出てきたんです。父もまた、お念仏を心の拠り所にしていたんですね。南無阿弥陀仏は現世の人同士だけでなく、亡くなった人ともつながれるのだと感慨深い思いです。

山極 最後に研究センターに期待されること、望まれることなどはありますか、もしよければ?

伊藤 発展されることを願うばかりですが、まずは法

然上人の実像に迫る上での一次資料の掘り起こし。そして、仏教以外の分野の研究者、例えば心理学者や哲学者、比較宗教学者の方々もメンバーに加えながら、広い視野での法然研究を望みます。現代の多分野の識者が見いだす法然観、法然仏教の価値を研鑽することで、現代人が法然上人から学ぶべきことがより明確になるのではないのでしょうか。

石丸 法然様の御教えと浄土宗の周知にご尽力いただくこと、他宗教との交流、共通点についての言及も深めていただきたいと思います。

阿弥陀仏とイエス・キリストには共通点があるという私見を持っておりまして、三身説や聖書などを読んでその思いを強くしています。仏教の真如に人格的意志を想定すれば、キリスト教のロゴスと同じ処に帰入するのではないのでしょうか。私はそこに普遍的真理を見出しており、シルクロードを介して交流が考えられます。

山極 ご教示を肝に銘じると共に、今後もお二方のご示唆、ご指導を賜りながら研究を進めていきたいと存じます。本日は本当にありがとうございました。



山極 伸之(やまぎわ のぶゆき)
1961年、長野県生まれ。佛教大学文学部仏教学科を卒業。同大学院博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。マールブルク大学宗教学資料収集所客員研究員、イェール大客員研究員、佛教大学教授などを経て、2009年4月1日より佛教大学長。専門は仏教学。日本印度学仏教学会賞、浄土宗学術賞を受賞。浄土宗教師。



伊藤 唯真(いとう ゆいしん)
1931年、滋賀県生まれ。佛教大学卒業、同志社大学大学院文学研究科博士課程(文化史学専攻)修了。1961年佛教大学講師。1974年同教授。1985年同文部部長、1989年佛教大学長、1997年京都文教短期大学長、佛教大学名誉教授、1999年家政学園(現京都文教学園)学園長。2007年大本山浄土宗法主就任。2010年浄土門主・総本山知恩院門跡上任。

わけてですが、法然上人の表現には興味深いものが多いと思います。

法然上人は多様な魅力を持ち、念仏の教えを通して多くを教えてくださいます。私は天災が頻発し、また価値観等の違いからさまざまな問題が起きているこの現代においてこそ、上人の教えを見直さなければならぬと考えています。お二方はいかがでしょうか?

伊藤 近代以降、人々の物質に対する執着が強くなり、科学は物質的な繁栄を願うところから発達してきました。反面、今まで我々の祖先が大切にしてきた精神性は忘れ去られ、目に見える

「物の世界」ばかりを追い求め、豊かな心を失ってきた。その点で宗教こそが目に見えない「心の世界」の重要性を説かなければならないのに、近代以降は現世における喜びのみを追求しがちです。法然上人は「往生」と言って、死後という見えない世界への生き方を考えられ、救済の原理を打ち立てました。往生のために何をすべきか、という観点に立ち、豊かな精神や心の復興を促すことが重要でしょう。

石丸 東日本大震災後「絆」という言葉がしきりに言われるようになりました。仏教の教えの根本は絆だと聞いたことがあります。法

彼がそれを望んでいるだろうと推察されたわけですね。本当にお心遣いが細やかで、熊谷直実に宛てたお手紙では、直実の年老いた母親へのお気遣いを細やかに説いておられます。

伊藤 浄土宗における本願の行は念仏であり、本来であれば孝養、つまり親孝行よりも念仏を勧めるところを、一人の人間として直実と母を思い、安らかな境地を迎えられるように孝養を尽くしてくださいと言っている。世俗の倫理もとても大切にしているわけです。

石丸 とても面白い比喻表現を用いてお話しされる点も魅力ですね。人間心理万般に通じ、また真理を論理ではなく、比喻をもって語るころは、聖書におけるキリストの説き方と共通していると感じています。

「目に見えない」
「心の世界」の復興

山極 仏教は相手の素質・能力に従って法を説く「対機説法」を旨としていますから、比喻を用いるのは釈迦の頃から実践されている

伊藤 唯真(いとう ゆいしん)
1931年、滋賀県生まれ。佛教大学卒業、同志社大学大学院文学研究科博士課程(文化史学専攻)修了。1961年佛教大学講師。1974年同教授。1985年同文部部長、1989年佛教大学長、1997年京都文教短期大学長、佛教大学名誉教授、1999年家政学園(現京都文教学園)学園長。2007年大本山浄土宗法主就任。2010年浄土門主・総本山知恩院門跡上任。



開設記念のシンポジウムを開催「源を尋ねる意義—いま、なぜ法然仏教学なのか—」

日時：2014年7月19日(土) 13:30~16:00
会場：佛教大学紫野キャンパス常照ホール
参加申込不要・入場無料 定員 300名

第Ⅰ部 「法然仏教学研究センター開設の意義」

開設経緯 山極 伸之(法然仏教学研究センター長)
研究内容 本庄 良文(法然仏教学研究センター研究員)

第Ⅱ部 トークセッション「法然仏教学研究センターへの期待」

内田 樹氏(神戸女学院大学名誉教授)
釈 徹宗氏(相愛大学教授)
山極 伸之・本庄 良文
コーディネーター：曾和 義宏(法然仏教学研究センター研究員)

お問い合わせ

佛教大学法然仏教学研究センター
Tel.075-491-2141(代表)
E-mail honenbc@bukkyo-u.ac.jp

B-ism

2014 June

法然上人研究の拠点!

2014年4月「法然仏教学研究センター」開設

2012年に開学100周年を迎えた本学は、その際公表した10年後の大学像「佛大Vision2022」に基づき、2014年4月、新たに「法然仏教学研究センター」を開設しました。本学の教育理念の礎でもある浄土宗とその開祖である法然上人に関する研究を専門的に行う、世界初の研究センターです。佛教大学の建学理念と研究蓄積を土台とし、法然上人に関わる基礎研究と浄土宗学を徹底して推進することにより、本学でしか成しえない法然仏教学の確立を目指します。センター長には山極伸之学長が就任。

ダイハツ陸上競技部
社会学部現代社会学科2014年卒業

前田 彩里

Sairi Maeda

大阪国際女子マラソンで4位の快挙！

リオへ、そして東京へ 感謝の気持ちを込めて走り続ける、 マラソン界のニューヒロイン！

2014年1月の大阪国際女子マラソン。一人の大学生が、颯爽となにわの地を駆け抜けた。フルマラソンを走るのは初めてという一般参加ランナーながら、全体で4位。日本人では引退レースとなった赤羽有紀子さんに次ぐ2位という好成績を挙げた選手の名は、前田彩里さん。今年3月に本学を卒業した、日本の陸上長距離界、期待の新星だ。

メリハリのある 部の雰囲気が好き

「1月の大阪国際女子マラソンの結果は予想していましたが？」

練習でさえ42・195キロを走ったことほなかったの、順位も記録も本当に予想外でした。佛大陸上競技部の中長距離部門は、卒業後も競技を続けたい選手が引退レースとしてこの大会に出場するのが通例なんです。私は今後マラソンに挑戦するつもりだったので、監督に志願して参加させてもらいました。とにかく最初から最後まで楽しく走れました。

「大会にはマラソン経験者のお母さんも出場されてましたね？」

母とこんな大きな大会で一緒に走るの初めてだったんですが、ゴール後に「走ってみてどうだったか」と聞かれたので「楽しかった

と答えたら、母は「めっちゃきつかった」と。母の計画では、後半には私の足が止まるだろうから、最後には抜くつもりだったらしいです。折り返し地点を過ぎてすれ違う際に、手を振って「頑張ろう」と声を掛け合えたことはいい思い出です。

「佛教大学陸上競技部での活動を振り返ってくださーい。」

本当に充実した4年間でした。大学屈指の強豪校への入部には覚悟がいりましたが、所属していた高校の先輩から佛大の魅力を知っていたので迷いはありませんでした。練習するときは

真剣に取り組み、リフレッシュするときはきちんと休むという、メリハリのある部の雰囲気が好き。楽しかった日々を振り返ると卒業するのは寂しい気持ちになりますね。

練習に関して私は、このトレーニングがどう役立つか納得しなければ取り組まないタイプなんです。監督やコーチは意図を明確にしてください。選手の意見も尊重してくれました。とても実のある競技生活が送れました。

「リフレッシュはどんな風にしていましたか？趣味のネイルをしたり、友達と買い物したりとい

ろいろです。陸上部のメンバーだけでなく、同じ学部友達ともよく出かけました。私が寮生活で門限があるので、遊びに行くときはとても気をつけてくれました。憧れだった京都の街の散策にもよく行きました。お寺巡りが楽しかったですね。

でも、お話ししたように大切なのはメリハリ。通常の練習時間外でも、食事メニューや睡眠時間に気を配っていましたし、レース前には大好きなアイスクリームも我慢していました(笑)。

リオ五輪出場が 現実的な目標に

「大学時代で自身が最も成長したと思う点は？」

陸上に対する意識でしょうか。高校時代は自分が勝つため、自分の喜びのために走っていたんですが、佛大の入部当時の監督から「周囲への感謝の気持ちを持って走りなさい」と言わ

れ驚きました。親をはじめ、サポートしてくれている多くの人に「走らせてもらって感謝」なんて考えたことがなかった。でも、自分のためではなく、周りの人のために走るという気持ちがあれば、妥協をしなくなるんですね。たとえ疲れていても足が動く。この意識の変化は、大きな大会で結果を残せるようになったことと無関係ではないと思います。

「卒業後はダイハツ陸上競技部への入部が決まっていますね。」

ロンドン五輪にも出場された木崎良子さんから佛大出身の先輩方が多く所属していて、結果を出していることが決め手になりました。木崎さんから「ダイハツは佛大と雰囲気似ている」と聞いて安心していきます。マラソン転向に向けて、スピードの向上があらゆ

る面でレベルアップしなければなりません。私は駅伝でもトラックでも人の背中を見て走るのが嫌いなので、常に先頭を走ろうとしてしまっんですが、マラソンはより長い距離を走るの、他の選手との駆け引きも必要になってきます。学ぶべきことは多いですね。

「最後に今後の目標を聞かせてください。」

当面の大きな目標は、2016年開催のリオデジャネイロ五輪出場です。大阪で結果が出たことで、現実的な目標になりましたし、周囲の期待を受ける中で自覚も芽生えてきました。まずは、トラック種目で鍛えて納得のいく記録を出し、マラソンに挑むつもりです。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、大学時代以上にストイックに競技に打ち込んでいきたいと思っています。



大阪国際女子マラソンで4位入賞の前田彩里さん(毎日新聞社提供)

前田 彩里(まえだ・さいり)
1991年熊本県生まれ。熊本信愛女学院高等学校から佛教大学に進学。陸上競技部女子中長距離部門に所属し、1回生時には全日本大学女子駅伝対校選手権大会で、チームの2連覇に貢献。4回生の時、大阪国際女子マラソンに一般参加。2時間26分46秒の日本学生新記録で4位、日本人では2位に、母・淳子さんとの合計タイム5時間22分10秒は、ギネス記録に認定。2014年3月に本学を卒業し、現在、ダイハツ陸上競技部所属。

ある日の高橋ゼミ
鋭い質問が飛び交う
建設的なゼミへ

この日発表するグループに課せられた題目は「地域の発展と経済を考える」。メンバーは東日本大震災を軸にして、震災が東北地方にもたらした経済的影響や復興の糸口をまとめた。製造会社の被災によって機械部材の供給が滞った「サプライチェーンの寸断」や、個人・企業が陥った「多重債務」の問題を指摘。高橋先生からは、もう少し事例を増やすなど、リアリティのある発表を心がけるようにといった注文があったが、初回としては「よく頑張った」と評価された。

サプライチェーン問題に関しては「調達する企業側は、海外も視野に入れて製造会社を複数抱えておく」という解決策を提示したが、質疑応答で「現実問題として、部品の質は維持できるのか?」という鋭い意見がベトナム人学生から出た。その他、原発問題への言及が少ないという指摘があるなど、ゼミが建設的な意見交換の場になりつつあることが垣間見えた。先生はそんな状況を歓迎しつつ、ゼミ生たちのさらなる成長に期待を寄せている。



て相手が理解しやすいようにプレゼンしなければならぬ。「大切なのは相手の心を理解、優先して、データの収集やレジュメ作成を行えるかどうか。自らの主張をわかりやすく伝えながら、相手が持つであろう疑問も想定しなければなりません」。データ収集の方法としては、文献だけでなく実際に現地に赴くフィールドワークの重要性も付け加える。

二つ目は、「外国人留学生・研究生と一緒に学ぶ」という点だ。今年度から本学の国際交流センターのセンター長も務める高橋先生は、自身の研究フィールドでもあるベトナムとの親交が深く、地元大学との連携強化や交換留学の活性化に尽力してきた。研究室で日本語の勉強会を開くだけでなく、希望者には担当ゼミにも参加さ

せ、日本人と一緒に課題発表に取り組んでもらっている。これには大きな意義があると先生は考えている。「言葉や文化の異なる人と接し意見を交わせば、生き方や考え方に多様性が生まれます。若い学生には緊張や抵抗があるかもしれないが、社会人として多様なものの考え方は必要不可欠。社会学を専攻するならばおさらです。時々ではなく、日常的に触れ合う機会を作ること、より身になっていきます」。スタートしたばかりのこのゼミでは、まだ十分な「効果」は現れていないが、「例えば質疑応



答の際、日本人は相手を困らせないように配慮して質問するが、ベトナム人はストレートな発言をする。など、考えさせられる場面も増えてきている。一方でベトナムや中国の大学は講義授業が主体で、皆で協力して課題に取り組む授業形態はほぼ皆無らしく、外国人学生にも良い刺激になっているという。「多様なものの考え方ができるようになれば、他者理解につながる。互いに支えあいながらそれに気づいてほしい」。グローバル社会において不可欠な力をゼミ生たちは培っている。

「異文化交流ゼミ」のきっかけは、先生自身の体験に根ざしている。「会社員を辞め、私が大学へ入学したのは22歳の時。そんなに年の差はないとはいえ、若い人との接し方には苦労しました。でも、ベトナムで過ごした日々と同様に本当に良い経験になったんです。年齢を超えて、国を超えて——。高橋先生のゼミでは、真にグローバルな人材が育まれている。

Professorial Seminars

多様な考え方を育む
グローバルなゼミ

社会学部 公共政策学科教授

高橋 伸一

日本やベトナムの生活史を中心に研究活動を行っている高橋伸一先生担当の3回生ゼミは、社会的な課題に対して学生が解決方法を調査・発表するという形態をとっている。だが、どうやら高橋先生の狙いは課題の考察を深めることだけではないようだ。

高橋 伸一(たかはし しんいち)

1947年福岡県生まれ。高校卒業後、一般企業に就職。その後、佛教学部社会学部に入學、卒業。佛教学部大学院社会学研究科博士課程単位取得退學。専門は生活社会学。生活史研究及びベトナム社会の研究を中心に行っている。著書・論文に「移動社会と生活ネットワーク—元成徳労働者の生活史研究」(高倉出版)、「社会統計学者小島勝治の遺された課題」(社会学部論集第52号、佛教学部社会学部)、「公共性と企業」(飯田哲也・浜岡政好編「公共性と市民」学文社)など多数。

「おはようございます!」。快活な高橋先生の挨拶に迎えられ、学生たちが続々と教室に入ってくる。今年の4月から始まったゼミも、今日で4回目。「地域の発展と経済を考える」グループの発表の日だ。発表側はもちろん、聴く方のゼミ生にも多少なりとも緊張が見られるが、それ以上に目にとまったのが、参加者の中にいる数人の外国人学生の姿だ。聞けば、ベトナムと中国の交換留学生や研究生だという。「私のゼミにはほぼ必ず参加してもらっています」と話す高橋先生には、ある思いがある。

ゼミのテーマは「グローバル社会と仕事・労働」。そこから派生する「所得格差を考える」「地域の発展と経済を考える」「ジェンダーの不平等を考える」「外国人労働と雇用問題を考える」という四つの課題ごとに、ゼミ生4~5人ほどのグループを結成。課題についてグ



ループでさらにテーマを設定して情報を収集、それを基にレジュメを作成し、プレゼンテーションを行う。「日本の公共政策を雇用・失業問題の側面とともに、海外との関係性という視点でも捉え、日本経済・社会の今後の展開と一緒に考えること」と、ゼミの目的を語る高橋先生だが、実は「主題」は別のところにあるという。一つは、「情報収集やプレゼンテーションの方法、議論をする際のマナーを身につけてもらうこと」。社会に対してさまざまな提言を行っていく社会学には、これらは必須の能力。発表側は、的確に情報を収集し



なうな掌話 その十三

冒険みやげは絵本 —「ユーアイランドのかけはし」—



ユーアイの楽しみは冒険だけではありません。子どもたちは冒険することによって、絵本「ユーアイランドのかけはし」をつくること

ができるのです。ブースを回るごとに、そのブースで体験することを描いたカードを1枚受け取ります。5ブース全部を回ると5枚が集まり、最後に絵本の表紙と裏表紙のカードを受け取ることができます。この7枚を重ねると、一冊の絵本が出来上がり。これは私たちから子どもたちへのプレゼントです。

子どもたちに、時々この絵本を開いて、ユーアイのことを思い出してほしいと思います。

異文化ブース

いろいろな国の文化を体験する異文化ブース。日本・朝鮮・中国のコマを体験しました



子どもたちの異文化交流

「異文化交流と人権」をテーマに、年1回開催されるイベント「ユーアイスクエア」が2月15日、紫野キャンパスで開かれました。2014年は「You 緑Iの架け橋」を目指して、京都市内の公立小学校14校と朝鮮学校2校の児童あわせて300人が参加。学生100人も加わり、総勢400人を超える異文化交流の一日になりました。

佛大なう NOW!

ユーアイスクエア



手づくりしました

当日は午前7時半から、学生スタッフが集まってスタンバイ。9時すぎ、続々と子どもたちが学校ごとにやってきて、今年のユーアイスクエアが幕を開けました。オープニングの後、体育館に設けられたブースを巡る「冒険」がスタート。子どもたちはグループに分かれ、異文化、佛カラ、オモニ、ダンス、シンボルの五つのブースを巡ります。それぞれのグループには学生スタッフ

佛カラブース

佛大の特色を知ってもらう佛カラブース。さまざまなゲームやミッションが用意されています



ダンスブース

みんなで楽しくダンスを踊るブース。毎年、「うらじゃ」というダンスを踊るのを楽しみにしている子どもたちがたくさんいます

オモニブース

朝鮮の食文化を味わうオモニブース。チヂミ・トック・キムチをおいしくいただきました



ユーアイスクエアは、京都市内の公立小学校と朝鮮初級学校の児童に人権と国際理解を深めてもらう異文化交流会です。2000年に梅津小学校で開かれたのが始まりで、2002年から会場を本学に移し、教育学部を中心とした学生が企画・運営しています。運営を通して学生自身も多くのことを学んでいます。朝鮮学校とは、在日朝鮮人が自国の言葉や歴史を朝鮮語で学び、民族的自尊心やアイデンティティをはぐくむといった民族教育を行う学校です。

シンボルブース

みんなで形あるものを作り上げるシンボルブース。今年はみんなで星座を作りました



学生の目 × 教師の目



A student's eyes

文学部英米学科4回生 倉田千春

ユーアイをつくっていくうえで、まず自分たちが「異文化」について知らなければなりません。そして、それをどうすれば子どもたちは楽しみながら学べるのか、試行錯誤してきました。朝から夜中までみんなで作業や話し合いをしたり、誰かの家に泊まり込んで準備をすることもありました。時には意見が合わず喧嘩しましたが、素直に思っていることを伝え合うことで、助け合うことができました。そんな時間を過ごせたからこそ多くの仲間ができ、私の中でユーアイはとて大きな財産となっています。



A teacher's eyes

京都市立紫明小学校 中面悠子 教諭 (教育学部卒業生)

私も学生時代にユーアイの運営に携わりました。計画や準備などを通して「実践力」だけでなく、学生や児童や先生との「つながり」など多くのことが、今の教師という職業で役立っています。特に学生間のつながりは、しんどい思いを一緒にした分、すごく強いです。今でも連絡を取り合っています。当時、「絶対自分のクラスの子どもたちを連れてこよう」と話していましたが、教師になり、何度も子どもたちをユーアイに連れてきています。「新しい友達ができたい」と喜んで帰ってくる子どもたちの姿を見て、とてもうれしく思います。

編集後記

多くの方々にお世話になり、「佛大なう」を完成させることができました。本当にありがとうございます。今回はユーアイスクエアについてより多くの方々を知ってほしいという思いから佛大なうを手がけました。記事を書くにあたって、初対面の子どもたちが活動を通して、仲良くなり協力していく様子や、朝鮮学校の子どもがハンゲルの読み方や意味を、ほかの子どもたちに教えてあげていたことを思い出し、ユーアイの素晴らしさや学んだことを再確認することができました。ユーアイスクエアは来年も開催する予定です。興味を持った方は是非参加してください。みんなで楽しいユーアイをつくって行きましょう!

B-ism

2014 June

「障害者と家族の『当たり前』の暮らしのために」

社会福祉のあり方を当事者の生活から問う

社会福祉学部社会福祉学科 准教授 **田中 智子**



障害のある子どもの生活は、誰が面倒を見るのか？
この質問にほとんどの人が「親」と答えるに違いない。
その“一般的な”回答に異議を唱えるのが田中智子先生だ。
障害者とその家族の現実を調査する中で得た成果は、
今後の社会福祉のあり方を考える上でとても意義深い。

制度に翻弄される当事者

行政の政策面でも障害者が家族から自立して生活するという意識は薄い。「多くの障害者は、年金と工賃を合わせても生活保護の水準にも満たない。月10万円程度の収入しかないのに、今年から老齢基礎年金の減額に伴い障害基礎年金の支払額が年間で13000円も下がった」。これらを含め障害者福祉の制度は短いスパンでの改正が相次いでいる。「そして、制度が変わる度に当事者の生活は困窮していく。年金減額も月々で換算すれば1000円ほどだが、福祉作業所で働く障害者の平均月収が約18000円と考えれば衝撃は大きい。にもかかわらず社会的に大きな問題になっていない」。

「障害者と家族に自助努力を求めるだけでなく、社会のあり方や専門的な支援が考えられなければならない」。田中先生は、まずは

事故の責任は誰に？

大学時代は教育学部に在籍。障害児教育を学んでいたが、ボランティアとして主に成人した知的障害者と接する中で、本人と介護する家族の抱える生活問題への探求意識が高まっていった。大学院で社会学を専攻

する過程で「障害者と家族が抱える問題は、個人や家族自身に責任があるのではない。それを生み出しているのは、社会の仕組みや、当事者たちに対する見方」と考えるに至った。

「障害者の生活には家族が責任を負うべき」という考え方は、こと日本において根強い。例えば今年4月、認知症の男性（当時91歳）が亡くなった踏切事故について、鉄道会社が遺族に遅延損害の賠償を求めた訴訟の控訴審で、高等裁判所は介護していた妻（91歳）に360万円の賠償を命じる判決を言い渡した。

当事者の生活の現実を知ろうと、これまで障害のある人がいる家族の生活実態を調査してきた。

画一化された生活の中で

2011年11月に行ったのが家計簿調査だった。ある自治体の知的障害者手帳を持った人がいる世帯に1ヶ月間家計簿の記入を依頼。本人と家族がいくらのお金をいつ、誰と、何のために使ったのかを調べ、生活の実情を知ろうとした。約150世帯の有効回答から見えてきたことの一つは

「画一化された生活」の実態だった。低収入ゆえに生活の質がパターン化している人も当然だが、一般就労して、ある程度収入がある人であっても「生活がワンパターン。コンビニや、ゲームセンターを毎日利用する人もいて、生活に広がりがないことが気になった。大人らしい豊かな余暇生活、そのためのお金の使い方に関する支援も必要だと感じた」。

もう一つは「支出観念」だ。障害者本人の収入だけでは生活できない場合、

不足を補うのは家族だが、通常の場合、本人が独立すれば下がるはずの食費や光熱費は障害者のいる家庭では下がらず一生涯続く。「本人が幼い頃からずっと同じようなお金の使い方になっているので、家族にとっても支出が当たり前になってきている。本人を成人した一人の人間と考えたときに、まずはその人のために必要な金額の適正値を明確にして、家族にもそのことを意識化するように伝えることが必要だと感じた。そし

てそれは、年金等の所得保障の是正にもつながるはず」。

『当たり前』の暮らしをめざして

「日本では障害のある子どもが生まれると、親は仕事を辞めるなど生活を変えざるを得ない。福祉先進国の北欧では、障害者の生活の責任は社会にあるとの認識の下、家族は仕事を続けたり自分たちの時間を過ごすことが保障されている。つまり、子どもとの生活と自分自身の人生が両立できる」。

生活における選択肢が家族に与えられる。言い換えれば、一般の家庭と変わらない暮らしを送れるということだ。

「障害者福祉の世界では

「聞いてやってー 障害児子育てのホンネ・家族の思い」 HOT&ほっと+田中智子編(クリエイツかもがわ) 障害者の家族と一緒につくった本。研究生活の出発点となった。



田中 智子(たなか ともこ) 福岡県生まれ。広島大学大学院社会科学部前期課程修了。広島大学大学院社会科学部後期課程退学。佛光大学大学院社会福祉学専攻修士課程退学。修士(学術)。専門は障害者福祉論、社会福祉援助方法論。主な著書・論文に『新版現代障害者福祉論』(共編著・高菅出版、2011年)、『社会福祉実習—社会福祉現場と共におよむ社会福祉士を目指して』(共編著・高菅出版、2011年)、『知的障害者のいる家族の貧困とその構造的把握』(論文・全国障害者問題研究会『障害者問題研究』Vol.37No.4、2010年)、『家計構造からみる成人期知的障害者のいる家族の貧困』(論文・貧困研究会『貧困研究』明石書店、2010年)



「聞いてやってー 障害児子育てのホンネ・家族の思い」 HOT&ほっと+田中智子編(クリエイツかもがわ) 障害者の家族と一緒につくった本。研究生活の出発点となった。

ノーマライゼーションという概念がある。いかにノーマル、つまり当たり前の生活を障害者や家族に保障していくかを考えるわけですが、基準は、同時代を生きる同年代の人と同等の生活。それを社会は保障していかなければならない。その思いは、「知的障害者が働きながら学ぶ機会を保障」を企図して学生と立ち上げた「ひだまり」の活動(※)にもつながっている。

社会福祉を学ぶ学生にも、田中先生は多様な選択肢を持つようにと説く。「支援する側の人間が持つ引き出しが支援の身を大きく左右する。豊かな生活のイメージがなければ、相手に豊かな生活の提案はできない。支援者自身がいろいろな物に触れ、発想を豊かにしなければ」。田中先生は、すべての人が同じように暮らせる社会の構築をめざして今日も研究を続けている。



瀬戸 賢一(せと けんいち)
1951年、京都市生まれ。専門は英語学。博士(文学)。著書に『プログレッシブ英和中辞典(第5版)』(小学館)、『日本語のレトリック』(岩波書店)、『メタファー思考』(講談社)、『ことばは味を超える』(海鳴社)など多数。

先生のお気に入り favorite

ロゼッタストーン

第八回 文学部 英米学科教授
瀬戸 賢一先生の巻



力をくれる石碑

「ロゼッタストーン」とは、長年解読が不可能だったエジプトの神聖文字「ヒエログリフ」が解明されるきっかけとなった石碑。1799年にナポレオンがエジプトのロゼッタという港湾都市で発見しました。碑文内容は、紀元前196年に開かれたエジプトでの宗教会議の布告。上から順にヒエログリフ、古代エジプトの民衆文字、古代ギリシャ文字といった三つの言語の文字で記されており、すでに読み方や意味の判読がなされていたギリシヤ文字を翻訳するヒント、ヒエログリフが解読されました。その後、ピラミッドなどに記された同文字の解明にもつながる偉大な発見になりました。

ロゼッタストーン最大の魅力は、記された文字によって、古代の史実を含めたいろいろなこ

がわかるきっかけとなったものであるということ。言語学者である私にとっては何より、古代の文字が解読されたことで、当時の文化や思想までわかったという事実にとっても興味をそそられます。30年程前、イギリスの大英博物館で初めて実物を見たときは非常に興奮しましたね。ミュージアムショップでレプリカを見つけ、すぐに購入しました。

現在私は、「言語学から見た我々の時間の認識」というテーマで執筆活動に励んでいます。言語学の側面から時間をみた研究は前例が少なく、困難さからくじけそうになることもありますが、そういう時は机の上に飾ってあるこのレプリカを見て、自分で自分を励ましています。

言語、文字に携わる者として、古代の文字に関する有力な資料となった石碑は、見るだけで研究の励みになるんです。ロゼッタストーンは、まだまだ文字に残したいことがたくさんある私に、力をくれる大事なものです。

チームの和を大切に、切磋琢磨した日々

張本 優大

Masahiro Harimoto

福岡ソフトバンクホークス捕手
社会学部公共政策学科2014年卒業

昨年プロ野球ドラフト会議で、福岡ソフトバンクホークスから育成ドラフト4位指名を受けた本校卒業生の張本優大さんに、硬式野球部での4年間やプロでの今後の目標についてお聞きしました。



捕手にとって大事なことは？
捕手は、チーム全体を見渡しながら、試合をコントロールする役割を担うポジションです。一流捕手としての「雰囲気」を漂わせておられて、あらゆる面で参考になります。

印象的なエピソードは？
4年生時の春季リーグ戦、優勝をかけた京都学園大学戦が特に印象的でした。8回裏、リードを1点にまで詰め寄られて迎えた打者を、2ストライクまで追い込んでいました。そこで二つ変化球を投げさせるか迷ったのですが、結局要求したストリート打たれて同点にされてしまい、最終的に敗れて優勝を逃しました。自分のリードが結果的に、投手に責任を押し付ける形となり、チームには大きな迷惑をかけました。捕手として、野球選手として、自分に負けない強い心を持たなければならぬと感じました。



張本 優大(はりもと・まさひろ)
1990年大阪府生まれ。硬式野球部に所属し、レギュラー捕手として活躍。3年生時には大学日本代表候補合宿に参加、京滋大学野球連盟リーグ戦ではベストナインを3回、敢闘賞を1回受賞。二塁到達1.8秒台の安定した送球をはじめとする高い守備力と、勝負強い打撃力でチームを牽引した。現在は、福岡ソフトバンクホークスに所属。

※インタビューは2014年3月に行いました。

プロ生活はいかがですか？
想像以上の練習量と、パワー、スピード、技術のあらゆる面で大学生との違いを目の当たりにして驚いています。長所である捕手としての守備力をしっかりとアピールするとともに、練習を積んで、一日も早く一軍でレギュラーとして活躍できるようにしたいです。目標は同じチームの鶴岡慎也選手です。一流捕手としての「雰囲気」を漂わせておられて、あらゆる面で参考になります。

野球部での4年間を振り返ると？
2年生の時に京滋大学野球秋季リーグ戦で優勝し、関西選手権を勝ち上がり、目標としていた明治神宮野球大会でプレーできたことはいい思い出です。

後輩たちにメッセージをお願いします。
まずは、僕たちが4年生時に達成できなかったリーグ優勝を実現してほしいですね。投手力は高いレベルにあるので、部伝統の守りの野球をしっかりやれば勝てると思います。後悔しないように、全力で日々練習に励んでほしいですね。

Hello!!

卒業生スベシャルインタビュー
クラブ・サークル見聞録

番外編

彼は

在学生のインタビューでお送りしている「クラブ・サークル見聞録」ですが、今回は「番外編」と称し、卒業生に語ってもらいます。

悩みを抱える 教師と生徒の架け橋に

京都府教育委員会中学校スクールソーシャルワーカー
社会福祉士

辻 康子さん

佛教大学通信教育課程社会学部社会福祉学科・
教育学部教育学卒業
大学院教育学研究科生涯教育専攻修士課程修了



卒業証書授与式にて



辻 康子(つじ やすこ)
京都府舞鶴市出身。看護師を経て佛教大学の通信教育課程の
学部、大学院で学ぶ。現在は京都府教育委員会から委嘱を受け、
主に中学校を中心としたスクールソーシャルワーカー(京都府の
名称はまなび・生活アドバイザー)を務めながら講演なども行っ
ている。

医療から福祉、そして教育へ
スクールソーシャルワーカー(以下、SSW)※としての活動を始めて6年目になる辻さんは、京都府教育委員会から委嘱を受け、中学校2校に勤務し、その校区にある小学校6校への支援を行っている。
辻さんがSSWになったきっかけは、佛教大学での学びの中にある。元々、京都府舞鶴市の総合病院に看護師として約20年間勤めていた辻さんは、退院する患者への生活支援の不十分さを感じていた。「医療も大切ですが、これからは福祉の分野が重要だと考えました。非常勤看護師として働きながら佛教大学の通信教育課程社会福祉学科への入学を決意しました」。SSWを知ったのは、社会福祉学科の講義の中だった。当時、

友人から大学生の子どもが不登校だと相談を受けていたので、日本ではまだ導入されていなかったSSWが早く導入されて欲しいと望んでいました。さらに引きこもりの子どもと接していくうちに子どもへの理解の難しさを実感。社会福祉士の資格も取得し、社会福祉学科を卒業後、教育や人格形成について学ぶため、すぐに教育学部教育学科に入学。「大学生の不登校」をテーマにした卒業論文は、学内の優秀論文賞を受賞した。そして、教育学部の教授の勧めもあり、大学院へ進み、不登校の問題研究にさらに打ち込んだ。大学では繋がりや縁を感じる事が多々ありました。多くの人と出会ったからこそ今の私があります。」
2009年、辻さんが大学院を修了すると同時に、SSWの導入が全国的にスタートした。辻さんは、京都府教育委員会からの委嘱を受け現職に。多忙な日々を送っている。

まずは相手を信じる
SSWとして辻さんが最も大事にしていることは信頼関係。ある中学校の教師から「教室に入らない生徒が何人かいる」と相談を受けた辻さんは、生徒につきっきりで対応していた教師に、「80%の力」で接するよ

う伝えたいことがある。「生徒の持っている力を引き出すことは先生方の得意技なので、生徒の力を見極めながら、まずは生徒を信頼して見守ることを提案しました」。辻さん自身が教師を信頼していたからこそその提案だった。結果、半年程で教室は落ち着きを取り戻した。「これは私の力ではなく、先生と生徒の力。先生と生徒の間に信頼関係が生まれ、このよ

う伝えたいことがある。「生徒の持っている力を引き出すことは先生方の得意技なので、生徒の力を見極めながら、まずは生徒を信頼して見守ることを提案しました」。辻さん自身が教師を信頼していたからこそその提案だった。結果、半年程で教室は落ち着きを取り戻した。「これは私の力ではなく、先生と生徒の力。先生と生徒の間に信頼関係が生まれ、このよ

※スクールソーシャルワーカー(SSW)
社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、悩みを抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家



2回目の料理教室の様子。
「お母さん」のような講師が料理を教えてくれる。
同日、星野さんが作ったお弁当(写真右)。お土産として持って帰ったという。



人と人を繋ぐコミュニティの場 「料理教室」を通して地域活性化を目指す

幅広い世代の人と関わりたい

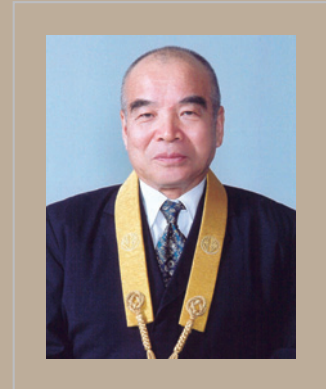
「実際に見て触れることが、私の『まちおこし』の基礎です」。そう語るの、3回生の星野光紀さん。元々地域活性化活動に興味があり、本学の社会学部公共政策学科に入学。本学が取り組む京都市北区や南丹市美山町での地域貢献活動などに積極的に参加してきた。「座学で勉強したことを活かすため、実際に地域の方と関わることを大事にしています」。
更に星野さんは、学外の活動にも力を注いでいる。去年10月、本学で開催された北区の地域活性化を目的とした意見交換会に参加。学生や自営業、行政など多種多様な立場、世代の人が集まり意見を出し合う中、星野さんは「料理教室」を提案。料理を通して北区の住民と若い世代の交流を図り、地域活性化に繋がりたいと伝えた。



社会学部 公共政策学科3回生
星野 光紀さん

提案の理由は「私自身が料理を習いたかった」から。また、家族と離れて暮らす日々の中で「お母さんのようになんでも気軽に相談できる人がいれば」と感じたからだ。「一人暮らしの学生もそんな存在を求めていると思うし、自分と違う世代の方との交流は社会で必ず役に立つと思います」。
企画は意見交換会に参加していた「京都市北青少年活動センター」の賛同を得て、センターや講師との打ち合わせを繰り返しながら準備を進めた。
今年2月9日、第1回目の料理教室には10人の参加者が集まった。「年代も料理の経験値も異なる方々に参加して良かったです」。その日は、ブリ大根やふろふき大根など、一人暮らしでは難しい大根を丸々一本使い切ることに挑戦した。料理をする過程で、初対面だった参加者同士の会話も弾み、自然なコミュニケーションが生まれたという。「また来たい」、このような場を設けてくれて嬉しい」と喜びのお声が聞けました。私自身も色々な方と触れ合うことができ、楽しい時間を過ごせました」。
1回目から好評を博し、5月18日には2回目を開催。夏には3回目の開催を予定している。順風満帆にも思える料理教室だが、開催に至るまでは不安もあったという。「私が思うほど皆は繋がりを求めているのではないかと、参加者は集まるのか」。多くの人が来てもらうため、参加費は若い人のお財布事情を考慮して500円に、開催日は休日を設定するなど、工夫した。「私が卒業しても続いて欲しいですね。今は運営体制をしっかり固め、基盤作りをしています」。
今回の活動をきっかけに、「食」にますます興味を持った星野さん。将来は地元に戻り、地元の特産品を使った「食のまちおこし」をしたいと考えている。「直売所を増やすなど、近い距離で生産者と消費者が触れ合えるような環境を作りたいです」

元学長、名誉教授 水谷幸正先生 ご遷化



本年2月7日、佛敎大学の元学長、佛敎大学名誉教授であられた水谷幸正先生がご遷化されました(享年87歳)。

水谷先生は、1949年に佛敎専門学校をご卒業の後、1951年に佛敎大学に奉職され、1957年に仏敎学部専任講師、1961年に仏敎学部助教授、1967年に文学部教授となられ、1999年の3月に退職されるまで、およそ50年の長きにわたって佛敎大学にご奉職いただきました。この間、大学内にあっては1969年から事務局長を10年間、そして1979年からは第6代の佛敎大学長として大役を10年間にわたってお務めいただき、総合大学としての佛敎大学発展の礎を築かれ、今日の姿に導いてくださいました。また、1999年から2011年まで佛敎大学の設立法人であります浄土宗教育財団(現：佛敎教育学園)理事長を、2011年からは学校法人相談役を務められました。

先生のご業績はきわめて多岐にわたりますため、そのすべてを紹介することは不可能ですが、教育・研究・社会貢献・国際交流として大学運営と、まさしく八面六臂の大活躍をされ、先生の薫陶を受けた人材がいまや世界各地で活躍するなど、宗教界・教育界のみならずあらゆる分野にわたっての人脉を築かれ、社会の発展にも大いに寄与されました。

このような偉大な指導者を失ったことは痛恨の極みではありますが、佛敎大学が法然上人の心を心とする大学であるという先生の教えをあらためて噛みしめつつ、この精神と伝統をしっかりと護り、先生が生涯にわたって身をもって示してくださいました教育と研究に対する情熱と意志を引き継ぎながら先生のご恩に報いることを、佛敎大学構成員一同、あらたに決意いたしております。

つきましては、水谷先生の薫陶を受けられた方々ならびに大学を通じて先生とご縁のありました多くの皆さまとともに、来る10月、佛敎大学におきまして「水谷幸正先生を偲ぶ会」を開催させていただきます。詳細に關しましては、後日、大学ホームページにてお知らせいたしますが、先生のご生前のご遺徳を偲び、そのご恩に感謝申し上げることも、先生のご功勞にご功績にあらためて敬意を表したく存じます。公私ご多端の折かとは思いますが、多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。

平成26年6月

佛敎大学長 山極 伸之

1 硬式野球部 50回目のリーグ制覇!



硬式野球部が、5月16日に行われた京滋大 学野球連盟春季リーグ 第8節3戦目の京都大学戦に勝利し、5季ぶり50回目のリーグ優勝を果たしました。6月10日から明治神宮野球場と東京ドームで行われた「第63回全日本大学野球選手権大会」へ、京滋大野球連盟代表として出場しました。

2 二条駅周辺の魅力を紹介するホームページを開設



http://tekuteku2.net

社会学部公共政策学科の関谷龍子ゼミを中心とした学生と、JR・地下鉄二条駅周辺の住民や商店主とが共同で、駅周辺の情報を紹介するホームページ「二条駅」を開設しました。「スザク二条駅ぶらっとホームプロジェクト」の一環で企画されたもので、二条駅周辺のさまざまな情報(お店・人・活動など)の提供を通じて、駅周辺の人と人との交流、コミュニケーションの活性化をめざしています。

3 「むらさきっず」が平成25年度 学まちコラボ事業 最優秀団体賞を受賞



京都市北区紫野で一人暮らし高齢者支援の取り組みを行っている学生グループ「むらさきっず」が、平成25年度学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)最優秀団体賞を受賞しました。

むらさきっずは、一人暮らし高齢者の会「パープルフレンズ」と一緒に、オリジナル曲「防災かぞえ歌」を作り、「要援護者も防災対策の担い手になることができる」というこれまでにない発想で活動・事業に取り組んできました。

学まちコラボは、公益財団法人大学コンソーシアム京都と京都市が、大学と地域が一体となったまちづくりや地域の活性化を目的とする事業を募集し、選定のうえ助成支援を行っているものです。

4 「大宮防災と福祉のまちづくり応援隊」が 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」で奨励賞を受賞

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会 防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰式



防災教育や活動に取り組む学校や団体を顕彰する平成25年度1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」(主催：兵庫県、毎日新聞社、ひょうご震災記念21世紀研究機構)で、本学の「大宮防災と福祉のまちづくり応援隊」が、大学生部門の奨励賞を受賞しました。

「大宮防災と福祉のまちづくり応援隊」は、福祉教育開発センターが行っている地域福祉フィールドワークの活動の一つです。京都市の大宮学区で、一人暮らしの高齢者サポートや避難所運営訓練、防災に関する講座開催などの活動を通して、「災害にも強い福祉の地域づくり」を支援しています。

2013年度退職教員

仏教学部

- 池見 澄隆 (仏教学科 教授)
- 福原 隆善 (仏教学科 教授)
- 藤本 浄彦 (仏教学科 教授)

文学部

- 劉 木 (中国学科 講師)
- Felicity Greenland (英米学科 講師)

歴史学部

- 中井 真孝 (歴史学科 教授)

教育学部

- 井上 修一 (教育学科 教授)
- 北川 治 (教育学科 教授)
- 黒田 恭史 (教育学科 教授)
- 谷川 至孝 (教育学科 教授)
- 黒川 嘉子 (臨床心理学科 准教授)
- 神谷 キヨ子 (特別任用教授)
- 橋本 忠和 (特別任用教授)

社会福祉学部

- 永和 良之助 (社会福祉学科 教授)
- 寺川 志奈子 (社会福祉学科 教授)

保健医療技術学部

- 倉鋪 桂子 (看護学科 教授)
- 清水 知子 (看護学科 助教授)

教職支援センター

- 太田 光雄 (講師)
- 加藤 隆司 (講師)
- 小西 敏明 (講師)
- 西田 益久 (講師)

B-ism

2014
June

文学部



メドロツツ 篤麻弥
准教授
■英米学科
英米文学

仏教学部



本庄 良文
(教授)
■仏教学科
浄土学

2014年度 教員・職員
新規採用者紹介

教員は学科と専門を、職員は所属を表記
※特別任用教授は学科表記なし

NEW FACE

教育学部



平田 豊誠
(講師)
■教育学科
学校教育学(理科教育学)



青砥 弘幸
(講師)
■教育学科
国語科教育学、ユーモア学



楊 韜
(講師)
■中国学科
中国近現代史、メディア論



鈴木 正彦
(特別任用教授)
数学教育学、比較教育学



石川 美智子
(特別任用教授)
学校教育相談



中道 泰子
(准教授)
■臨床心理学科
臨床心理学、箱庭療法

保健医療技術学部



芝山 江美子
(教授)
■看護学科
公衆衛生看護学、国際看護学

社会学部



堀江 典子
(准教授)
■公共政策学科
都市環境学、都市計画



波多野 達一
(特別任用教授)
美術教育学

教職支援センター



三上 英夫
(実習指導講師)
英語科教育、生活指導



増山 亨
(実習指導講師)
初等教育、ICT教育



高岸 康隆
(実習指導講師)
社会科教育、特別活動(進路指導)

職員



山崎 真由子
■生涯学習部生涯学習課



福嶋 悠
■生涯学習部通信学務課



海老原 星太
■施設部施設課

第7回佛教大学 小学生俳句大賞
結果発表



応募数は、昨年を上回る低学年の部15,625句、高学年の部26,631句、合計42,256句。

国内だけでなく、海外はアメリカ、マレーシアからもご応募いただきました。
厳正な審査により選ばれた入賞作品を発表させていただきます。



低学年最優秀賞

ばあちゃんせんたくものところし柿
兵庫県 西宮市立今津小学校 3年 浅野 つかこ

高学年最優秀賞

豆ごはん弟むいた豆うまい
京都府 京都市立常盤野小学校 5年 伊藤 宙輝

〈優秀賞〉

- 水たまりこおりがわかれてパズルする
京都府 京都市立藤ノ森小学校 1年 青山 大規
- めけかけのまえはめけけないふゆ休み
京都府 京都女子大学附属小学校 1年 白井 稟乃
- つららくんするどいキバでなにかむの
鹿児島県 曽於市立大隅南小学校 2年 高松 洸之介
- かゆ食べて春の七草言えるかな
東京都 江戸川区立第三松江小学校 3年 小松 凜
- 親せきのなまりとびかうお正月
東京都 日野市立日野第六小学校 5年 青山 麻里
- かまくらはシースンかぎりのひみつきち
山形県 最上町立向町小学校 5年 小原 日和
- 風邪で寝る母の隣に置くりんご
京都府 京都女子大学附属小学校 6年 立花 聖
- こたつにねををせんぶ食べられた
兵庫県 伊丹市立瑞穂小学校 6年 中村 恵子

〈選考委員特別賞〉

- ふとんからすべにでられるゆきのあそ
兵庫県 伊丹市立菅原小学校 2年 中野 隼人
- 大根ひき地球を敵にしたみたい
東京都 足立区立立花田小学校 4年 田澤 諒磨
- 長くつを買ってもらった雪よふれ
埼玉県 八頭町立大江小学校 2年 杉原 飛龍
- 新雪に飛びこむほくがスタンプだ
京都府 与謝野町立三河内小学校 4年 岩松 佑晟
- サンタさんたのんだものどちがいます
京都府 京都女子大学附属小学校 2年 辛拓洋
- サンタさん？ 値札がついたプレゼント
大阪府 門真市立和田小学校 5年 川崎 帆夏
- ゆきだるまよくみてみるとおかあさん
京都府 京都女子大学附属小学校 1年 富岡 恭平
- われわれは宇宙人だとせんぶうき
京都府 八幡市立橋本小学校 5年 多川 光太郎
- さんまやけむりすいこむいわし雲
兵庫県 加古川市立平岡南小学校 3年 福田 愛真
- 庭のゆずおふるやぞこに仲間入り
群馬県 前橋市立駒形小学校 4年 馬場 健太
- やきいもはあむあむあむとおいしいね
大阪府 箕面市立豊川南小学校 1年 井深 優奈
- 稲を見ておいしいごはんがもう見えた
兵庫県 たつの市立播磨東小学校 5年 森本 優輝

入試に関するお知らせ

オープンキャンパス

[日時] 7月20日(日)、8月2日(土)・3日(日)、10月12日(日) [場所] 紫野キャンパス・二条キャンパス同時開催

公募制推薦入試

試験日	出願期間	試験会場
11月19日(水)・20日(木)・21日(金)	10月27日(月)~11月7日(金)	本学(紫野キャンパス)・金沢・名古屋・彦根・舞鶴・大阪・神戸・奈良・和歌山・岡山 ※11月21日(金)は本学・大阪のみ実施

通信教育課程に関するお知らせ

BUまなび隊(公開講演会)開催予定 BUまなび隊は通信教育課程が開催する地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	都市	会場	講演内容	申込方法
8月30日(土) 13:00~15:30	大阪	大阪市中央公会堂	●テーマ:「教育と社会(仮)」 基調講演講師:藤原和博氏(教育改革実践家、杉並区立和田中学校・元校長) パネリスト:藤原和博氏・原清治教育学部長・千葉芳夫社会学部長 コーディネーター:松尾俊秀生涯学習部長	7月中旬に通信教育課程HPに掲載予定

「特例制度」による幼稚園教諭免許状及び保育士資格の取得について

通信教育課程に「特例制度」による、幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得のための課程を開設いたしました。

詳細は、[佛教学大学通信教育課程HP](#)をご覧ください。

特例制度について

「幼保連携型認定こども園」が新たに創設され、その職員となる「保育教諭」は幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を有することが原則となります。ただし、改正認定こども園法の施行(平成27年4月以降)後5年間は、幼稚園教諭免許状または保育士資格のいずれかを有していれば、「保育教諭」として勤務できます。免許状・資格の併有を促進するため、幼稚園教諭免許状または保育士資格を有する実務経験3年以上の方を対象にした特例制度が設けられ、5年間の経過措置の期間中については、免許状・資格の取得に必要な単位数等が軽減されます。

宗教文化ミュージアム イベントカレンダー(2014年7月~11月)



宗教文化ミュージアム
宗教文化に関する有形・無形文化財の調査・資料収集および保存・公開、宗教文化情報の高度利用化などを行い、その成果を広く公開しています。

アクセス

- JR京都駅より京都市バス、「山越」より徒歩13分
- 京阪三条駅より京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢校前」すぐ
- 佛教学大学紫野キャンパスより京都市バス、「山越」より徒歩13分、「広沢池・佛大広沢校前」すぐ

お問い合わせ先

宗教文化ミュージアム
〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
TEL:075(873)3115 FAX:075(873)3121

7月7日(月)~9月6日(土)	夏期企画展 「六斎念仏のお道具」
8月30日(土) 14:00~	第25回シアター公演「唱う念仏、踊る念仏—京・若狭の六斎念仏②」 出演:瓜生六斎念仏保存会(国選択無形民俗文化財)、壬生六斎念仏講中(国重要無形民俗文化財) 解説:垣末 敏博氏(福井県立若狭歴史民俗資料館副館長)、八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者)
10月18日(土)~11月3日(月・祝)	秋期特別展 「近代の大蔵経と浄土宗 — 縮刷蔵経から大正蔵経へ —」
11月3日(月・祝) 13:00~	秋期特別展関連シンポジウム「縮刷蔵経から大正蔵経へ」 講師:[基調講演] 方 廣錫氏(上海師範大学) [発表] 大内 文雄氏(龍谷大学) 永崎 研宣氏(人文情報学研究所) 梶浦 晋氏(京都大学人文科学研究所) [進行] 松永 知海(本学仏教学部教授、本館研究協力者)
11月23日(日) 14:00~	第26回シアター公演「嵯峨大念仏狂言」 出演:嵯峨大念仏狂言保存会(国重要無形民俗文化財) 解説:八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者)

B-ism

2014 June

この号が出る頃には、サッカーワールドカップも佳境に入り、寝不足の方もたくさんいらっしゃることでしょう。SAMURAI BLUEの結果が気になるところです。今号では佛教学大学を卒業した2人のアスリートのインタビューをお送りしましたが、いかがでしたでしょうか。スポーツ界では卒業生の活躍が続いています。9月に開催されるアジア競技大会の陸上代表には、本学卒業生である木崎良子さん(マラソン)、西原加純さん(長距離)の出場が決まりました。これからも「佛大アスリート」から目が離せません!

佛教学大学広報課

B-information
みんなの掲示板
2014年 主な行事予定

学位記、卒業修了証書授与式(9月卒業修了)

Date **9 / 28 (sun.)**

創立記念日

Date **10 / 23 (thu.)**

第47回鷹陵祭(学園祭)

Date **11 / 1 (sat.) ~ 3 (mon.) (祝)**

ホームカミングデー
佛教学大学の同窓生を対象として開催します。学間に課外活動に、青春時代を過ごした大学に、ぜひお越しください。

Date **11 / 3 (mon.) (祝)**

ピックアップ ニュース

「酒づくりプロジェクト2014」始動!

今年で7年目を迎える「酒づくりプロジェクト」が始まりました。コミュニティキャンパス美山(南丹市美山町)で、4月下旬に地元の方の指導を受け、酒米(五百万石)の田植えをし、その後は草取りを行っています。

「酒づくりプロジェクト」は、田植えから収穫、醸造、販売プロモーションまでを、学生自らが手掛けるプロジェクトです。本学コミュニティキャンパス美山で酒米を栽培、日本有数の酒どころ京都・伏見にある招徳酒造の協力を得て、オリジナル日本酒を造ります。



酒づくりプロジェクト2014
「佛米! 夢乃酒」発売中

2013年度酒づくりプロジェクトでつくられた「佛米! 夢乃酒」が、発売中です。ぜひご賞味ください。

- 「佛米! 夢乃酒」純米吟醸(25BY)
製造元 招徳酒造株式会社
- 無濾過生原酒 720ml 1,620円(税込)
 - 火入れ 720ml 1,512円(税込)
300ml 712円(税込)
- ※300mlは細見酒店でのみ販売
- 取り扱い店舗
- 細見酒店(TEL.075-491-8743)
※インターネット販売も有り
<http://www6.ocn.ne.jp/~kitaru/>
 - 円町 島酒店(TEL.075-463-7166)
 - リカー&フーズまたの(TEL.075-781-9010)
 - 山岡酒店(TEL.075-461-4772)



読者プレゼントの **お知らせ**

佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。

佛米! 夢乃酒2013 火入れ(720ml) **10名様**

「ぶったん」のふせん **5名様**

※「佛米! 夢乃酒」へのご応募は20歳以上の方に限定させていただきます。

佛教学大学公式Facebookページを開発しています!

公式ホームページとともに大学の情報を発信しています。ソーシャルメディアを活用することで、より広く、そして佛教学大学の今をお知らせします。ぜひご覧ください。



【公式FacebookURL】
<http://www.facebook.com/bukkyo.univ>